

<バイバイ原発3・8きょうと 決議（案）>

福島原発事故から14年。私たちは福島原発事故の反省と教訓をもとに、
脱原発社会を一日も早く実現するため、以下の決議をいたします。

- 一、福島原発事故によって奪われた暮らし・健康・環境・地域社会を国と東京電力に償わせよう。
- 一、これ以上、海を汚してはならない。放射能汚染水の海洋放出をやめさせよう。
- 一、地震列島日本、若狭の老朽原発をはじめ、すべての原発の稼働・再稼働をやめさせよう。
- 一、使用済み核燃料の中間貯蔵によって問題を先送りするのではなく、
核燃サイクルをはじめ原子力政策の失敗を認めさせよう。
- 一、第7次エネルギー基本計画の「原発回帰・最大限活用」方針を撤回させよう。
- 一、省エネと再生可能エネルギーで気候危機を打開しよう。一日も早く脱原発社会を実現しよう。

2025年3月8日 バイバイ原発3・8きょうと 参加者一同

<各地の集会からのメッセージ（順不同）>

□■「3・11メモリアルアクション 原発のない新しい福井へ」からのメッセージ

電力供給地元の福井県の住民は、フクシマ原発災害以降、毎年3月に「さよなら原発福井県集会」を開催してきました。今年は、3月8日（土）に福井市フェニックスプラザ大ホールで「第14回集会」を開催します。「集会」は、12時30分から文化企画、13時からトーク、15時から市民行進と国道沿いでのスタンディングを行い、16時半に終了します。

昨年（2024年）1月1日に起こった能登半島地震の被災状況から、原発で重大事故が起これば住民は避難できないことが明らかになりました。また、50年前（1975年）に珠洲原発建設の計画が出されましたが、建設反対の粘り強い住民運動によって珠洲原発の建設は阻止されました（2003年）。もし珠洲原発が建設され運転されていたら、能登半島ではさらに原発災害が加わり、住民は数量的にも質的にも想像を絶する災害に遭われたでしょう。能登における住民運動の勝利は、大勢の人びとの命を救ったのです。私たちの反原発・脱原発の運動は、命を守るものであると確信できます。

私たちの「さよなら原発福井県集会」では開催のスローガンとして、「石破政権の『原発依存社会への暴走』を許すな！」「福島事故を繰り返すな！」「福井県知事は原発再稼働の容認の撤回を！ 関電は約束を守れ！」「住民の安全を第一に避難防災対策を！」「原発ゼロ、再エネで持続可能な地域経済を！」「原発汚染水の海洋放出を許すな！」などを掲げております。

特別講演者として、長沢啓行さん（大阪府立大学名誉教授）に「乾式貯蔵による老朽原発延命策の撤回を！」、また、小林昭三さん（新潟大学名誉教授）に「原発利益共同体による原発神話推進教育の偽実態と巻原発住民投票勝利の史的教訓」と題した講演をしていただきます。他に、「集会」アピールを発表し、福島からのビデオメッセージ上映やうたごえ演奏を行います。多くの脱原発資料やメッセージのパネル展示も行います。

「バイバイ原発3・8きょうと」にご参加のみなさまと連帯して、原発のない社会をつくるための住民運動を拡げ深める決意をお伝えし、連帯のご挨拶とします。

2025年3月8日 第14回さよなら原発福井県集会2025 in ふくい 参加者一同

□■「原発ゼロ京都北部府民集会」からのメッセージ

『バイバイ原発3・8きょうと』に参加のみなさんへ

東京電力福島第一原発事故から14年を迎えようとしています。福島の困難は今も続いています。京都府北部は、運転開始から50年を超える高浜原発から60km圏内に26万2千人もの府民が暮らしています。そして、若狭湾沿岸には、7基の原子炉が稼働し、15基が集中しています。

政府は、事故は起こらないという安全神話を復活させ、「最大限活用」として原発事業者や関連大